

IAUD Newsletter vol.6 第12号（2013年11月号）目次

1. 手話用語 SWG 勉強会&講演会 開催報告・・・・・・・・・・・・・1
2. 第3回 UD 検定 初級 講習会&検定試験 開催報告・・・・・・・・・・・・・5
3. IAUD 設立10周年記念イベント開催のお知らせ・・・・・・・・・・・・・8
4. スペイン UD 通信・・・・・・・・・・・・・8

聴覚障害者の視点と感性を導入した新しい教材、聴覚障害者と医療現場の紹介

特集：手話用語 SWG 勉強会&講演会 開催報告

2012年に発足した手話用語サブワーキンググループ(以下手話用語 SWG)は、「手話の必要性」について、企業が提供する製品やサービスにどのように手話を作成・提供しているか先行事例から学びたいという思いから、8月21日に勉強会「誰でもわかる Microsoft Excel 2010 の使い方 DVD 作成にあたって」を、9月20日には講演会「聴覚障害者医療を支援するには」を開催しました。

今月号の Newsletter は勉強会の様子を同 SWG メンバーの仁宮浩氏に、講演会の様子とアンケート結果を大室誠氏に報告していただきます。

聴覚障害者の視点でよりわかりやすい DVD を作成

勉強会「誰でもわかる Microsoft Excel 2010 の使い方 DVD 作成にあたって」



内田氏(写真左上)から有意義なお話を伺った勉強会

この勉強会は講師にリコー・ヒューマン・クリエイツ株式会社の内田園子氏(ろう者)をお迎えして8月21日(水)に IAUD サロン(東京・八丁堀)で開催し、同 SWG のメンバー5人が参加しました。

手話化するのに苦労した点

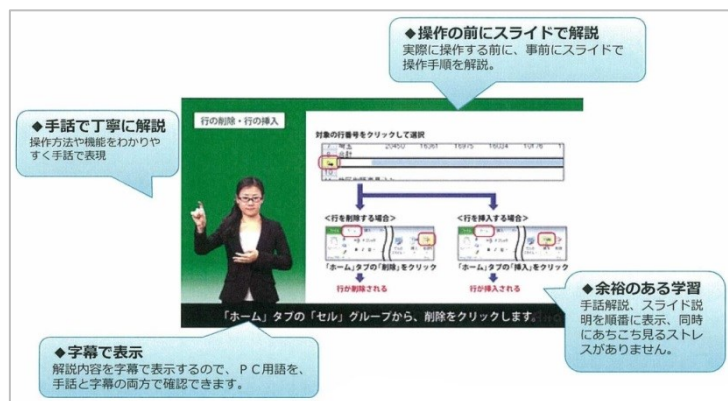
内田氏は、マイクロソフト認定トレーナー(MCT)資格を取得され、現在はろう講師として手話を駆使しながら Word や Excel を教える仕事をされています。自分自身が勉強で苦労した経験から、ろう者や聴者にもなるべくわかりやすく説明して理解いただけるように努められています。

勉強会では、これまでに講師をしてきたなかで専門用語のほとんどが手話化されていなく、自分で手話化するのに苦労した点についてお話してくださいました。例えば「フォルダー」「アイコン」は手話化されていなく、PC 画面にあるフォルダーのグラフィックスを指で描くように表現してから、次に「フォルダー」と「アイコン」をそれぞれ指文字で表現することで区別するようにした、ということです。新たに手話用語を作成するのに重要な視点であると感じました。

ろう者にも理解できる DVD 作成

さらに、内田氏にはアテイン株式会社からろう者にも理解できる DVD 作成にあたりアドバイスの依頼があり、内田氏は聴覚障害者の視点でより誰にでもわかりやすい DVD を目指したことによる成果や苦労、工夫した点をお話してくださいました。

例えば、手話、文字、操作の映像を同時に流すと目の動線が複雑になるので、手話の映像を左画面、操作の映像を右画面、その下に字幕をつけた画面という構成にし、先に左画面の手話映像と下の字幕を流してから、次に右画面の操作の映像を出す順番にしたということです。字幕をつけた画面構成と映像を流す順番にした工夫は大変参考になりました。



見やすいように工夫された画面

内田氏は将来、受講する側がどこまで理解できているのかをすぐに確認するために、例えば映像チャットを使った手話による講習を実現したいと夢をお持ちでした。

専門用語を手話化するプロセス確立へ

内田氏が自分自身のハンディキャップを乗り越えて資格取得した経験から個々に応じた教え方を実践し、さらにその経験を今回この DVD 作成にも活かすことができたというとてもいい事例のお話を聞くことができました。そして、自分と同じ障害を持っている人が試練を乗り越え、講師として活躍されているお話を聞くことで、私にとってとてもモチベーションを上げるきっかけとなりました。手話使用者の講師がいることは手話でないと理解できない人にとって心強い存在になることでしょう。

手話用語 SWG としても、専門用語を手話化するプロセスを確立し、手話化された手話用語に接することができる環境づくりを積極的に進めていきたいと思いました。

今回の勉強会開催にあたり、ご快諾をいただきましたリコー・ヒューマン・クリエイツ株式会社の内田園子氏には、この場を借りてお礼申し上げます。

情報発信と普及が課題

講演会「聴覚障害者医療を支援するには」開催報告

今回の講演会は東海大学医学部基盤診療学系健康管理学教授の高橋英孝氏(聴者)を講師にお迎えして9月20日(金)にセイコーエプソン東京本店(東京・新宿)で実施し、同SWGや他の研究部会のメンバーら16人が参加しました。

ご講演いただいた高橋先生は、医療分野に留まらず、福祉分野も含んだ広い視点で活躍されている数少ない医師の一人です。医療と福祉の融合は、一般の人以上に障害のある人にとってとても重要です。



ご登壇いただいた高橋先生

聴覚障害者にも容易な受診をサポート

聴覚障害はコミュニケーション障害です。ひとくちに聴覚障害といっても、全く聞こえない人や聞こえづらい人、日本語を習得する以前に失聴した「ろう者」や習得後に失聴した「中途失聴者」などの違いにより、必要なコミュニケーション手段はさまざまです。手話、筆談、口話(読話)、補聴器、人工内耳など多くの方法を組み合わせて使用しています。中途失聴者の多くは手話があまり得意ではありませんし、マスクをつけると口の動きが分からず読話できません。また、全く聞こえない人に対して大声で話しかけても怖がられるだけです。聴覚障害者にとっての病院は、病気になってどうしようもなくなったときに行く場所であり、健康なときには決して近寄りたくない場所のようです。

高橋先生は15年ほど前に都内の病院で常勤医として人間ドックをご担当されていた頃、聴覚障害者がほとんど来ないことに疑問を持ち、聴覚障害者を対象に検査を受けるときに困ることは何かという調査を行いました。そして、もっともバリアの高い胃のバリウム検査が簡単に受けられるようなシステムを開発するために、日立製作所中央研究所と共同研究を始められました。

現在では、胃部X線検診車両の一部で聴覚障害者にも容易な受診をサポートするインストラクションシステムが導入されています。

※詳細はIAUD Newsletter Vol.5 2013年2月号をご覧ください。

<http://www.iaud.net/dayori-f/archives/1302/28-163115.php>

聴覚障害者にいかに覚えてもらうかがカギ

さらに高橋先生は、高血圧、糖尿病、脂質異常症など患者数の多い病気でさえ病名を表す手話単語がなかった(例えば「高血圧症」は「血圧が高くなる病気」と意識されていた)ために、手話通訳を介してもコミュニケーションが十分に取れないことを痛感され、医療手話を作る必要性を強く感じて医療現場で役立つ手話会話集や単語集を出版されました。

意外なことに、手話の本を購入する人の多くは手話通訳者や手話に興味のある聴者であり、聴覚障害者自身の購入は少ないそうです。聴覚障害者向けに出版した本なのに、当の聴覚障害者はそれぞれの地域やコミュニティの中で独自に手話を作って会話してい

て、標準手話を知らなくてもコミュニケーションが成立しているのが実情のようです。

このことから、提供者だけが一生懸命に標準手話を作っても普及は難しく、いかに覚えてもらうかが課題であること、IT用語や裁判用語のように今まで作られたことのない新しい手話を標準化して広められる可能性はありそう、と提言をいただきました。

新しい標準手話の発信のしかた

聴覚障害者は勉強をしないのではなく、情報の取り方やどこに情報があるかといった情報が不足しています。新しい言葉は、手話通訳者が学んできた手話を見て覚えている状態です。また、医療手話は本当に病気になった時に初めて手話表現を覚えるのかも知れません。

聴覚障害者に標準手話を広報するには、聴覚障害者が情報を得るための全国的に一本化された窓口やWebサイトがあるとより標準手話を普及させやすくなりますし、年配の方には書店にたくさん手話本を並べる、人気ドラマで手話を使ってもらうなど、日常生活に密着した目の届きやすい形で発信すると良い、と教えていただきました。

なお、高橋先生は厚労省からの委託で標準手話の確定普及を行っている「社会福祉法人 全国手話研修センター日本手話研究所」で医療アドバイザーとしても活躍されています。

誰にとってもわかりやすい新しい手話を



講演に聞き入る参加者

聴覚障害者と聴者、そしてサポートする人たちを客観視し、それぞれに存在する課題を指摘下さり、聴覚障害のコミュニケーションにまつわる諸問題の全体像を感じ取ることができました。

手話は聴覚障害者の間で自然に生まれた言語であり、手や指の形、顔の表情や体の動きなどによって情報を伝えなくてはなりません。そのために、新しい手話は過去に作られた類似性の高い手話を応用展開してあてはめるケースが多々あります。こうした事情が、手話を知らない聴者にはよりいっそう通じにくい結果とな

ってしまっているのかも知れません。

一方で、聴者視点で手指動作に置き換えてしまうと、聴覚障害者にとっては覚えにくいものになってしまい、普及はおろか使われない手話になりかねません。誰にとってもわかりやすい新しい手話は、聴覚障害者だけで作るものではなく、ろう者や中途失聴者、聴者で共に創り上げていくものであると思います。「手話を知らない人でも手話で通じるようにしたい。いつまでも聴者の感覚で取り組めるように、あえて手話を覚えないようにしている」という先生の言葉がとても印象に残りました。

今回の開催にあたり、ご快諾をいただきました高橋先生にはこの場を借りてお礼申し上げます。

アンケート結果

講演後に参加者 16 名（ろう者 3 名、聴者 13 名）に行ったアンケート調査では以下の回答が得られました。

＜講演会の内容全般について、ご満足いただけましたか？＞

「満足」93.8%

「やや満足」6.3%

＜手話を必要だと感じますか？＞

「とても必要だと思う」75%

「やや必要だと思う」6.3%

「いずれともいえない」18.8%

＜意見・感想等＞

- ・ろう者と中途聴覚障害の方々とまったく違うことが良くわかった。
- ・手段としての手話情報が圧倒的に不足しているということに、関心を持つようにしたい。
- ・医療用語の手話を作られたことはとても大切だと思う。言語は人に知れ渡りはじめてから有効性を増していく。時間はかかるかもしれないが将来は重要性が高くなると思う。
- ・医師の教育に障害のことを勉強する科目がなく、障害について詳しく知らない医師が多いのは衝撃的だった。
- ・新しい手話を決めても、ろう者が学習しないと使ってくれない。より普及して使えるようになる工夫が必要と感じた。
- ・自分の実生活には必要な場面は少ない。しかし社会的視点から言えば必要と感じる。
- ・手話が第一言語の人が居て、その人たちとコミュニケーションできないのはお互いに不幸。聞こえる人同士でもできると便利ははず。

手話用語 SWG メンバー募集中！

手話用語 SWG は、一緒に活動くださるメンバーを募集しています。関心いただける方は IAUD 事務局までご連絡ください。

UD の基本的知識をその場で学習し検定 第 3 回 UD 検定 初級 講習会&検定試験 開催報告

昨年 10 月の「第 4 回国際 UD 会議 2012 in 福岡」開催時に第 1 回を実施した「UD 検定初級」講習会・検定試験も今回で 3 回目を迎え、神戸デザインウィークの開催期間中の 9 月 16 日（月・祝）に、デザイン・クリエイティブセンター神戸（KIITO、2012 年 8 月開館）で行いました。

当日は、朝から台風 18 号の影響で公共交通機関が広範囲にわたって止まり、講師をお願いしていた東洋大学ライフデザイン学部人間環境



第 3 回 UD 検定 初級 講習会の様子

デザイン学科の川内美彦教授が東京で足止めを余儀なくされ、急遽、神戸芸術工科大学大学院芸術工学研究科教授の相良二郎教授にお願いすることになりました。また、参加予定の一部の方が来られなくなるというアクシデントもありましたが、44名の方々に受講いただきました。

講習会と検定の二部構成が定着

今回も第1回、第2回と同じく、UDに関する基礎的、基本的知識を学習する講習会（2時間）と理解度テスト（1時間・50問）の二部構成のセット形式で行いました。講習会と検定試験の同時開催については、受講者の8割以上の方々に効率的で良いとの評価をいただいております、定着してきたと感じています。

また、これまでは講習会当日にテキストをお渡ししてきましたが、一部の方から「事前にテキストを読んでから参加したい」との声もいただいております、今後はご希望の方に有料で事前に送付するなどの対応も検討してまいります。

講義、テキスト、試験内容とも高評価！

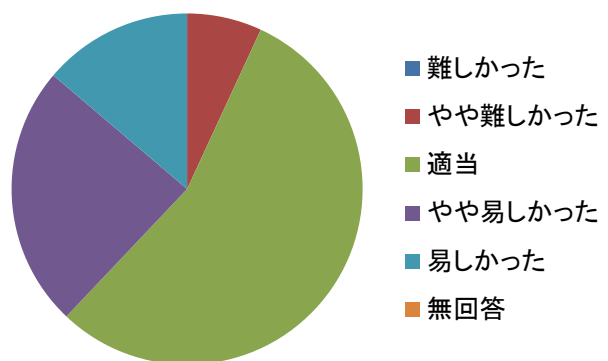
検定後に実施したアンケートでは、講義内容の評価は難易度、時間とも「適当」という方が約6割を占めました。一方、難易度では「易しかった」が約4割、時間は「やや短い」という方が約3割ありました。この傾向は第2回と同様でしたが、「実際のデザイン事例の紹介、体験などがあるとよかった」「講義を一方的に聞くだけでなく、演習や実技があるとより良かった」というフリーコメントをあわせて考えると、もう少し、ゆっくり時間をかけて掘り下げた内容を聞きたいというニーズのようです。

しかし、体験や演習などは、講義と検定試験との同時開催というプログラムの中では実現が難しいと考えています。IAUDで別途開催するセミナーなどにご参加いただければと思います。

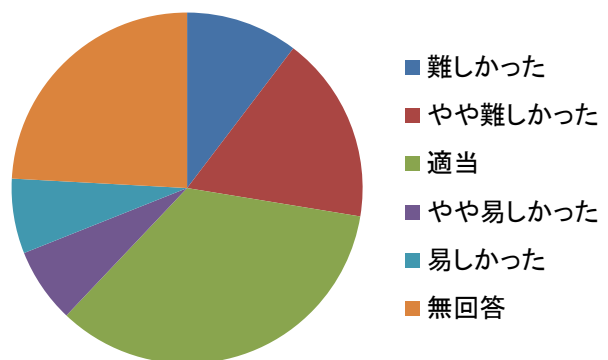
検定のお役立ち度については、約8割の方に「役に立つ」「やや役に立つ」との評価をいただきました。

テキストは「わかりやすい」が7割以上を占め、ボリュームも9割の方に「適当」との評価をいただきました。

第2回に行った大幅な改定が支持されたと考えています。



講義内容について



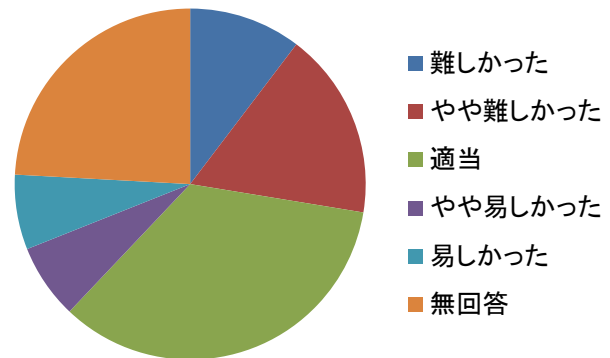
UD 検定のお役立ち度

今回特徴的だったのは、試験内容の難易度に対する評価です。「適当」とした人が前回より少なくなつて3割になり、これまで少なかった「難しかった」「やや難しかった」という方が3割を占めました（無回答3割）。

時間については「適当」（4割）、あるいは、「長い」「やや長い」（3割、無回答3割）とされていることから、時間不足が原因ではないようです。

ちなみに、今回は全員合格ではなかったものの、高い合格率でした。難しいと感じられた問題については、ぜひテキストで再確認をいただければと思います。

また、検定試験を含む受講料（5,000円）については、約7割の方に「適当」との評価をいただきました。



試験内容の難易度

UD 検定を広く一般の方にも

今回は企業関係者だけでなく、広く一般の方への浸透を図りたいとの思いから、神戸市のご協力を得て、UD 検定初級の講習会&検定試験のご案内を、神戸市地下鉄の駅や公共機関などに1万枚配布を致しました。

チラシを見て受講いただいた方はごくわずかでしたが、受講者の中には企業や大学・研究機関にお勤めの方だけではなく、主婦の方もいらっしゃいました。また、UD 検定に興味を持ったきっかけも、「UD を学びたいと思ったから」という方が4割を占めるように、UD 検定は資格の入手という側面だけではなく、一般の方に UD の考え方を知っていただくきっかけになっている様子が伺えます。

フリーコメントでは、「中級も早く取りたい」「UD 検定がより知名度の高い資格になるとよい」など UD 検定充実への期待や、「概念も大切だと思うが、それを生かせるようになることがより大切だと思う」「街づくりをすすめる上で、UD の知識を持った人材が必要だと思う」など、日々の暮らしの中に UD が浸透していくことの大切さを指摘する声もみられました。

第4回 UD 検定を11月21日に実施しますが、回を重ねることでより UD が広く一般の方にも浸透していくようにしていきたいと考えています。

※「第4回 UD 検定・初級講習会&検定試験」に関しては以下のサイトをご覧ください↓
<http://www.iaud.net/event/archives/1309/27-000000.php>

IAUD 設立 10 周年記念イベント開催のお知らせ

UD 検定と IAUD アワード 2013 表彰式も同時開催

IAUD は本年 11 月 28 日に設立から 10 年を迎えるにあたり、11 月 21 日(木)13 時半より富士ゼロックス R&D スクエア(横浜・みなとみらい)において、「IAUD 設立 10 周年記念イベント」を開催いたします。

当日は IAUD 新総裁の瑤子女王殿下にご臨席いただきおことばを頂戴するほか、国土交通省都市局長の石井喜三郎氏と岩手大学地域連携促進センター客員教授の渡邊政嘉氏による基調講演や、「これまでの 10 年、これからの 10 年〜クールジャパンと海外戦略における UD」をテーマにしたパネルディスカッションを予定しております。

また、「第 4 回 UD 検定・初級講習会&検定試験」や「IAUD アワード 2013 表彰式」も同時開催いたします。

参加申込みの募集は締め切りました。イベントの詳細は以下をご覧ください↓

<http://www.iaud.net/event/archives/1309/16-000000.php>



スペイン UD 通信

8.労働時間

スペインでの勤務時間は皆それぞれです。1 日 8 時間労働、年間約 1 か月の有休休暇を基本に、家族やライフスタイルに合った勤務時間を勤務先と調整しています。

今回は友人たちの勤務時間と長期休暇の過ごし方を紹介します。



ジュディシュ (40 歳) : 事務職

「月曜日から木曜日は 8 時半から 18 時半まで、昼食休憩は 13 時半から 14 時半の 1 時間で 9 時間勤務。超過勤務分は金曜日に休憩なしで 13 時半に退社して、消化しています。金曜日は退社後、バルセロナ郊外にある両親の別荘に移動して、家族と共にゆっくりと週末を過ごします。また、毎年 6 月から 9 月までは昼食休憩が 30 分間となり 18 時で退社できるので、近場のビーチに行ったりと有意義に過ごせます。今年の休暇は 9 月に 3 週間、12 月に 1 週間取得し、9 月はバスク地方とドイツに旅行、12 月はスペイン北部にスキー旅行をする予定です」

ルイス (37 歳) : 技術職

「勤務時間は 9 時から 18 時まで。昼食休憩は 13 時半から 14 時半の 1 時間。残業が多い週は金曜日に 15 時頃退社し、超過勤務分を消化しています。今年の休暇は 7 月に 2 週間、11 月に 10 日間、年末に 5 日間取得します。7 月はアイスランドに旅行、11 月は友人の結婚式でメキシコに、年末は友人の住むオーストラリアに旅行予定です」



アレイシュ（35歳）：公務員

「勤務時間は8時半～20時半、昼食休憩は13時半から16時の2時間半。昼食は自宅に戻って家族と一緒にとり、シエスタ（昼寝）もします。金曜日は午後12時半まで勤務し、月から木曜日までの超過勤務時間分を消化します。また、6月から9月までは夏時間勤務となり、勤務は16時で帰宅できます。休暇は8月に2週間、9月末に1週間、12月末に1週間取得し、フランスにある妻の実家に滞在します」

イヴァン（38歳）：管理職

「勤務時間は7時～16時で休憩なしの9時間勤務。退社後は子供を学校まで迎えに行き、その後自宅で昼食をとります。金曜日は11時に退社できるので、今年から金曜の午後には大学院でのビジネスコースを受講しています。今年の休暇は子供が夏休みの8月に1カ月取得し、バルセロナ郊外にある別荘に滞在しました」



カルロス（43歳）：海外営業職

「バルセロナ在住ですが勤務先はドイツにあるため、隔週で1週間のドイツまたは海外出張とバルセロナでの在宅勤務をしています。休暇は子供が夏休みの8月に2週間、年末に2週間取得し、両親の持つバルセロナ郊外の別荘に滞在します」

Newsletterでは、誌面を会員の皆さまのUDに関わる情報交換の場と位置づけています。ぜひ、会員企業のUD商品開発事例やPJ/WGの活動成果事例等の情報、国内外のUD関連イベント、シンポジウム等の開催情報をお寄せ下さい。

次号は12月上旬発行予定

特集：IAUD設立10周年記念イベント開催速報（予定）

無断転載禁止

IAUD 情報交流センター（IAUD サロン）：
〒104-0032 東京都中央区八丁堀 2-25-9 トヨタ八丁堀ビル 4 階
電話：03-5541-5846 FAX：03-5541-5847 e-mail：salon@iaud.net